

稲作



1. 分けつを早期に確保する

水管理と適期の中干し
高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎主体に穂数を確保することが重要です。

そのため6〜9葉期に発生する一次分けつを確実に確保する水管理がポイントとなります。

① 分けつの発生を促進するため浅水管理とし、水温・地温を高め、気温日較差は大きくなるようにします。かんがいは水温の低い早朝に、短時間で行いましょう。

② m²当たり茎数400〜450本(70株/坪で20本前後)を確保した時点が、中干し開始の目安です。平年では6月25日頃ですが、ほ場の状況をよく確認して行うてください。

なお、排水不良で中干しの効果が不十分となりやすいほ場で、畦畔に十分な高さがある場合は、中干し時期に水深15cmに保つことと分けつの発生を抑制できます。その後は中干しを実施しますが、幼穂形成期前までに終了します。

③ 中干しは、7〜10日間程度とし、ほ場に軽く亀裂が入り足跡のつく程度とします。

④ 中干しに併せ溝切りをすること、その後の水管理(間断かんがい・カドミウム吸収を抑える湛水管理終了後の排水作業)や秋作業がスムーズとなりますので、積極的に実施しましょう。

【6月25日頃の茎数と中干し時期の目安】

m ² 当たり茎数	中干し開始時期	中干し・溝掘り	中干し後の管理
目安 440本 / m²程度 ○21.2株 / m ² (坪70株)の場合 →平均茎数21本 / 株 ○18.2株 / m ² (坪60株)の場合 →平均茎数24本 / 株	○440本 / m ² 以上 →直ちに中干し ○440本 / m ² 下回る →浅水管理や間断かん水で茎数確保	○中干し期間(7〜10日程度) ○軽くキレツが入り、足跡がつく程度 ○溝切りの実施	溝切りを活用した間断かん水の実施

カドミウム汚染米発生が懸念される地域では、出穂前後各3週間(平年7月15日〜8月25日)の湛水管理を徹底して、カドミウムの吸収を抑制しましょう。

- 1) 中干し時期に溝切りを行い、水管理が簡単にできるようにする。
- 2) 中干しは土が湿っていて足跡がつく程度とし、7〜10日で終える。
- 3) 出穂前後各3週間は田面に常に水が張られた状態を保ち、中干し後に土壌表面が乾燥するような水管理は行わない。

2. 補植済み余り苗は直ちに処分

補植用余り苗ではいもち病が発生しやすく、周辺ほ場への強力な伝染源となります。

ほ場に放置されている苗が散見されますので直ちに処分してください。

3. いもち予防

(オリゼメート)粒剤施用
オリゼメート粒剤は初期の発病を抑えることで、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。箱粒剤や側条施用剤を使用し

生産履歴記帳運動

6月は・初夏穫りキャベツ・きぬさや・ふきの生産履歴用紙、提出時期です！！

◎生産履歴用紙は出荷する3日前までに提出しましょう！

記録をとることは面倒ですが・・・
皆さんが作っているのは「食品」です。
自分は「安全な食品」を作っているよと「証明」するための栽培記録が生産履歴です。
カレンダーを活用して日々の作業を記録するだけで生産履歴用紙の記入が楽になります。
～作業が終わったら、カレンダーに記録を残す習慣をつけましょう～

「栽培協定書」は必ず6月末までに提出してください！！

6月外務の配布物
・きゅうり・小なすの生産履歴記帳用紙
・生産者にとって記録を取ることは「当たり前」言われなくても提出する意識を持ちましょう。

生産履歴記帳用紙 回収状況 (5月28日現在)

春ねぎ 15名/43名
露地アスパラ 2名/9名
作業が忙しいと思いますが、早めの提出を心掛けて下さい！！

◆安全安心な農産物づくり推進協議会◆

なかつた場合は、6月15日頃(6月12〜18日)に10a当たり3kgを散布します。湛水状態で散布し、散布後4〜5日間は入水せず、7日間は落水や掛け流しは避けてください。

4. 斑点米カメムシ類の生息地を減らす雑草管理

斑点米を発生させる主要種はアカスジカスミカメで、アカヒゲホソミドリカスミカメが混発することもあります。

アカスジカスミカメはイネ科雑草等で繁殖しますので、密度を抑制するため、出穂前までに畦畔や農道、休耕田等で餌となる穂を付けさせない雑草管理が重要です。

また、ほ場内にイネ科やカヤツリグサ科の雑草があると成虫の侵入を助長するので、ほ場内の雑草対策も徹底してください。

※草刈り作業は、できるだけ地域や集落でまとまって、一斉に作業を行うようにしましょう。

5. 表層はく離やアオミドロ等の防除

表層はく離やアオミドロ等の発生が多いと、地温や水温が低下し、生育が抑制されます。

できるだけ発生が多くなる前から、気温の低い早朝や雨の日の水の入替えを基本とします。

水管理では効果が十分でない場合はモゲトン剤等を散布します。

6. ばか苗病株の早期発見と早期抜き取りに御協力を

種子伝染性の病害であるばか苗病株は、6月中〜下旬頃にほ場での発生が見られるようになります。早期の抜き取りに御協力をお願いします。

